

ルンバールセット

再使用禁止

【禁忌・禁止】

再使用禁止

<適用対象(患者)>

下記の症状が確認された患者には使用しないこと。[大後頭孔ヘルニアに繋がる恐れ、出血が持続する恐れ、感染箇所が悪化する恐れ、血管損傷する恐れなどがある。]

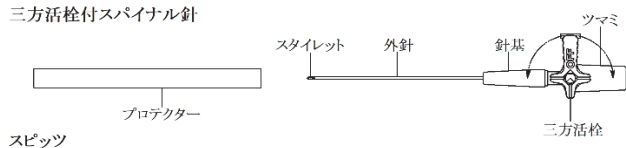
- ① 脳脊髄疾患(脳圧亢進・潜在性二分脊椎症など)
- ② 血液凝固異常
- ③ 感染症(穿刺部位の感染・敗血症)
- ④ 動脈奇形

【形状・構造及び原理等】

- * 本品は、三方活栓付スパイナル針、スピッツ、検圧管(ハードマンメーターまたはソフトマンメーター)の組み合わせよりなる。また ISO594-1/-2(ルアーコネクタ規格)と、ISO80369-6(神経麻酔用コネクタ規格)がある。

<構造図(代表図)>

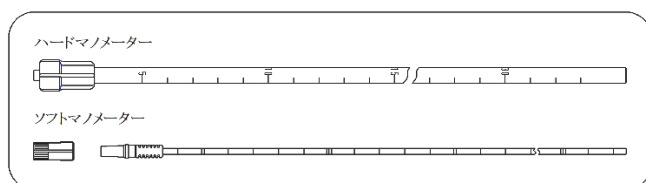
三方活栓付スパイナル針



スピッツ



検圧管



- 1) 外針及びスタイレット: ステンレス鋼(ニッケル・クロム含有)
- 2) 針基及び三方活栓(本体): ポリカーボネート及び真鍮(ニッケル鍍金)
- 3) 三方活栓(コック): ポリエチレン
- 4) ハード及びソフトマンメーター: ポリ塩化ビニル(可塑剤:フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))

【使用目的又は効果】

本品には脊髄針及び脊髄液収集用チューブが含まれており、脊髄液の採取を目的として使用する。

【使用方法等】

- 1) 穿刺部位の皮膚を消毒し、局所麻酔薬を注射する。
- 2) プロテクターをまっすぐに引いて外す。
- 3) 正中線から直前方向に向かって穿刺する。
- 4) 刃先の抵抗を感じ、次いで硬膜を穿通するとき膜を破るような感じがすると同時に、抵抗感がなくなる。そこで、スタイレットを抜いて髄液の確認を行なう。
- 5) 髄液の確認が終了したら、直ちに三方活栓を閉じ検圧管を接続する。三方活栓を開き、検圧管を垂直に保持して、穿刺部から液の上面までの高さを測定する。
なお、コックの OFF 位置が、閉塞した流路となる。

- 6) 液圧変動試験を行ない、一般的試験に必要な量をサンプリングし、終圧を測定する。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

- 1) 使用の際は、汚染に十分注意すること。
- * 2) 本品のオスメス嵌合部が ISO80369-6 対応の場合、ISO80369-6 に適合する製品と接続すること。
- * 3) ISO80369-6 であるかどうかは、包装表示で確認すること。
- 4) 針基とツマミが正しくセットされていることを確認の上、使用すること。
- 5) 外針、スタイレットには直接手を触れないこと。
[針刺し、感染のおそれがある。]
- 6) 穿刺の際は、神経損傷に十分注意すること。
- 7) プロテクターを外す際は、刃先がプロテクターに触れないようにすること。
[刃先が変形し、穿刺性能が低下するおそれがある。]
- 8) 検圧管等の接続は確実にこなうこと。
[嵌合部から漏れが生じる可能性がある。]
- 9) 接続部に薬液や血液等を付着させないこと。
[接続部の緩み等を生じる可能性がある。]
- 10) 嵌合させる際は過度な締め付けをしないこと。
[検圧管等が外れなくなる又は、検圧管等が破損する可能性がある。]
- 11) 接続部に薬液等が付着した状態で、締め付け及び増し締めを行わないこと。
[通常より深くテーパードに入り込むことで、コネクタの変形、破損を引き起こし、接合部からの薬液の漏れ、空気混入の原因となる。]
- 12) 三方活栓のコックを 180° 以上回転させないこと。
[本体又はコックが破損して、薬液が漏れる可能性がある。]
- 13) 針管に過剰な負荷が掛かるような操作は行わないこと。
[組織を損傷、裂傷させたり、本品が破損したりするおそれがある。]
- 14) 三方活栓の回転はスタイレットを抜去して行なうこと。
[スタイレットが湾曲し、スタイレットが外針から抜去できなくなる可能性がある。]
- 15) コックに対し、引き抜く方向に過度な負荷を加えないこと。
[コックが外れ、液漏れが発生する可能性がある。]

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- 1) プロテクターをリキャップする必要がある場合には、誤刺に注意すること。
- 2) 脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤などを含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、本体のひび割れに注意すること。
[本体は、ポリカーボネートを使用しており、薬液により本体にひび割れが生じ、血液及び薬液漏れ、空気混入等の可能性がある。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響を生じることがある。]
- 3) 脊椎麻酔について一般的に知られている次のような症状がみられた場合には使用しないこと。
 - ① 高度の貧血、脱水、ショック
 - ② 活動性の神経疾患
 - ③ 循環血液量の減少
 - ④ 脳脊髄腫瘍
 - ⑤ 中枢神経系障害

<不具合・有害事象>

手技に伴い、一般的な不具合や有害事象が発生する恐れがある。有害事象が発生した場合は術者の知見に基づき、適切な処置を行うこと。

- 1) その他の不具合
 - ① 本品の変形・破損

- ② 液漏れ
- 2) 重大な有害事象
 - ① 感染
 - ② 一過性神経症状
 - ③ 血圧低下
 - ④ 硬膜外血腫
 - ⑤ 硬膜外膿瘍
 - ⑥ 前脊髄動脈症候群
 - ⑦ 馬尾症候群
 - ⑧ 外転性神経麻痺
 - ⑨ 大後頭孔ヘルニア
- 3) その他の有害事象
 - ① アレルギー反応
 - ② 硬膜穿刺後頭痛
 - ③ 背部痛
 - ④ 出血
 - ⑤ 組織損傷

【保管方法及び有効期間等】

<保管方法>

水ぬれ、直射日光、高温多湿を避け保管すること。

<有効期間>

箱に記載している使用期限を参照のこと。(自己認証による)

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

<製造販売業者>

株式会社八光
TEL 026-275-0121

<製造業者>

株式会社八光

販売窓口:

東京都文京区本郷三丁目 42-6
TEL 03-5804-8500